

# 慶應言語学コロキウム

## 併合に基づくUGの設計の最適化

講師: 宗像 孝 [企画責任者] (横浜国立大学)

石井 透 (明治大学)、後藤 亘 (東洋大学)

大宗 純 (関西外国語大学)、林 慎将 (南山大学)

コメンテーター: 大石 正幸 (東北学院大学)、豊島 孝之 (東北学院大学)

内堀 朝子 (東京大学)、北原 久嗣 (慶應義塾大学)

日時: 2025 年 1 月 11 日(土)~12 日(日) 13:30-18:30

会場: 慶應義塾大学三田キャンパス北館大会議室

※対面開催のみ(オンライン配信の予定はありません)

使用言語: 日本語

参加申込: 研究所ホームページもしくは右のQRコードよりお申込み下さい

\* 今回のセミナーは生成文法研究の専門的知識が前提となります。

\* 準備の都合により、事前申込をお願いいたします。

\* 事前にお申込みいただかない方の当日参加も可能ですが、会場にて参加者カードへの記入が必要となります。



Chomsky が 1990 年代に極小理論を立ち上げた当時、基底生成を主とする外的併合と移動に対応する内的併合が提唱され、外的併合が基で内的併合が副次的なものとされてきた。しかし、研究が進むにつれて、この二種類のものは均一的なものとして、単一の演算操作として統合された。2017 年の Chomsky の Reading 講演や 2021 年の『言語研究』論文(“Minimalism: Where Are We Now, and Where Can We Hope to Go”)以降、併合の真相を探る研究は新たな方向に進み出し、意味解釈に司る Conceptual-Intentional System (CI) との密接性を重視し、Strong Minimalist Thesis (SMT) 及び Language Specific Conditions (LSCs) を基にして、併合の本質に対して鋭い視点で洞察がなされている。さらに、2024 年に出版された論文 “The Miracle Creed and SMT (MC)” にて連続循環移動が廃止される等の斬新な結論に到達したのは着目に値する。本コロキウムでは、このような洞察に則り、各講師が併合の深層に潜む本質に迫り、SMT と CI そして LSCs の関係に焦点を当て、併合を基にした UG の設計を探る。石井・後藤は、併合に課せられる条件を整理し、その帰結を探るとともに、併合の Proto 演算である集合形成 (Form Set) との理論的および経験的棲み分けを明らかにする。大宗は、UG の設計指針として概念的に最も重要な点の 1 つである「Language of Thought」に関する原理 (MC で提案された原理 T) を基に併合の適用様式を論じる。また、併合により作られた構造関係を基にした一致関係について新たな可能性を探る。宗像は CP 領域/節システムの外的併合を中心に論じ、併合が CI の意味解釈にとって最適な解を与える可能性を探る。林はコピー関係を与える際の派生規則とコピー関係の解釈規則を議論し、前者により ECP を、後者により、従来統語的制約とされてきたものを表示的制約として捉え直す。

### 第一日目

・コロキウム趣旨説明・概説

・発表 1: 併合理論の再考: 条件、帰結、そして集合形成との境界 (石井透・後藤亘)

・発表 2: 原理 T の帰結: 併合 (統辞関係)・一致関係 (大宗純)

### 第二日目

・発表 1: Language Specific Conditions が形成する併合 (宗像孝)

・発表 2: コピー関係をめぐる派生/表示規則 (林慎将)

[お問い合わせ先]

〒108-8345 港区三田2-15-45 慶應義塾大学言語文化研究所

電話: 03-5427-1595 (事務室直通) メール: genbu@icl.keio.ac.jp

<http://www.icl.keio.ac.jp>